

メロンの病害虫防除を徹底しましょう

つる枯病

【発生及び被害の状況と発生条件】

主に茎、葉、葉柄に発生する。茎における発病部は、**黄褐色**となりヤニを生じる。つる枯病は、湿度が高いと病斑が水浸状となるため、つる割病と間違え易いが、病斑部に多数の小黑粒が出るので判別できる。

【防除のポイント】

- 1.定植後の株元の土はできるだけ乾燥させ、灌水は株元に直接あてない、また株元の乾湿の繰り返しを防ぐ。
- 2.できるだけ換気をして通風を良好にし、低温多湿にならないようにする。
- 3.肥切れしないよう注意し、樹勢の低下を防ぐ。
- 4.曇雨天日には、ハウス内でもハサミによる管理作業をしない。
- 5.薬剤散布は、薬液が株元、茎、葉のいずれにも良くかかるよう丁寧に行う。



つる割病

【発生及び被害の状況と発生条件】

圃場内の1～2本のつるが晴天時にしおれ、日没、曇天時に回復する症状を繰り返し、やがて**枯死**する。しおれ症状を起こした株の地際部の茎は水浸状となり、赤褐色のヤニを分泌する場合が多い。また、症状が進むと白色または淡紅色のカビを生じることが多い。

【防除のポイント】

- 1.夏季の**還元型太陽熱土壌消毒※**と抵抗性台木の併用が有効である。
- 2.発病株や発病が疑われる株は直ちに抜き取り、肥料袋などに入れて腐らせ、圃場から離れたところに穴を掘って埋める。
- 3.厳寒期定植の作型を避ける。
- 4.発痛した圃場の土を他の圃場に持込まないように、ロータリー耕などの際は充分注意する。



写真出典：茨城県農業総合センター病害虫防除部(病害虫防除所) 病害虫資料室
<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou/shiryoshitsu/shiryo-tsurukare.html>
<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou/shiryoshitsu/shiryo-tsuruwari.html>

※基幹作物生産振興助成金(土壌消毒資材費助成)

農業振興課では、土壌病原菌等によって特定の農作物がうける連作障害を予防するため環境を配慮した還元型太陽熱土壌消毒の経費の一部を助成しています。

助成対象：**メロン**、いちご、みずな、パセリ、ほうれんそう、小松菜、トマトの7品目への還元型太陽熱土壌消毒資材費(ふすま、米ぬか)の購入費

トマト黄化葉巻病の防除を徹底しましょう

トマト黄化葉巻病(写真1、2)は、タバココナジラミ(写真3)が媒介するウイルス病です。発病してからの治療はできないため、タバココナジラミの防除が重要です。

また、別のウイルス病であり、タバココナジラミおよびオンシツコナジラミが媒介する黄化病(写真4)の発生も平年よりやや多い状況です。

これから気温が上昇してくると、コナジラミ類の増殖が早く、活動が活発になるため、両ウイルス病の発生が拡大するおそれがあるので、防除対策を徹底しましょう。



写真1 黄化葉巻病の頂部の萎縮症状



写真2 黄化葉巻病の葉の退緑症状



写真2 タバココナジラミ成虫



写真2 黄化葉病症状

写真出典：茨城県農業総合センター病害虫防除部(病害虫防除所) 病害虫発生予察情報 病害虫速報No.12
<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou/yosatsujoho/documents/sokuhour6-12.pdf>

【防除上注意すべき事項】

- ① 発病株は伝染源となるため、**速やかに抜き取り**、適切に処分する。
- ② コナジラミ類の施設内への侵入、施設外への飛び出しを防ぐため、**開口部に0.4mm目合い以下の防虫ネットを設置**する。
- ③ **黄色粘着板**や**黄色粘着テープ**を施設内や周辺部に設置し、コナジラミ類成虫を捕殺する。
- ④ 薬剤散布は、**薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧**に行う。コナジラミ類の薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 雑草はコナジラミ類の生息場所となるため、**ハウス内外の除草を徹底**する。

サツマイモの立枯病対策をしましょう

立枯病は土壌中の放線菌の一種によって起こる土壌病害です。
土壌の高温乾燥、高 pH(5.5 以上) 条件下で発病が助長されるため、対策をしましょう。



(地上部) つるが伸びない症状が連続する



(地下部) 円形・不整形のへこんだ黒褐色病斑、形状の乱れ



(地上部) 葉が紫色に変色、節基部に陥没病



◎発生対応及び防除のポイント

- 発生したほ場では品目を転換する
- 抵抗性が強い品種(ベニアズマ)に切り替える
 - ・(抵抗性 やや強:ベニアズマ、中:べにはるか)
- 植付前にクロルピクリンが主成分の土壌くん蒸剤を用いたマルチ畦内消毒を行う
 - ・剤がきちんと出ないと効果が劣るので、使用前に注入器の点検を必ず行いましょう
- 土壌診断に基づくpH改善→石灰質資材を過剰施用しない、pH降下剤の使用等
- 遅植えなどによる高温・乾燥を避ける→6月前半までに定植を終わらせる等

サツマイモ基腐(もとぐされ)病に注意

サツマイモ基腐病とは糸状菌による病害で、全国で発生が広がっています。感染すると、地上部の枯死や塊根(いも)の腐敗などを引き起こし、周囲の株や別の畑にも次々と発生が拡大してしまうため、発生した場合は早急の対応が必要になります。

銚田市は「日本一のサツマイモ産地※」のため、発生すると**甚大な被害**となりますのでサツマイモ基腐病が疑われる場合は、銚田市農業振興課まで、早急にご連絡ください。

※農林水産省 令和4年度市町村別農業産出額(推計)データベースより



株の葉巻、萎縮症状



株の基部の変色(暗褐色～黒色)



なり首側からの腐れ

写真出典:農研機構生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業(01020C) 令和2年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」
https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/138589.html

※参考【茨城県総合防除計画】

茨城県では、近年の病害虫の発生に対応するとともに、化学農薬に頼りすぎない、環境に配慮した適切な病害虫防除対策を推進する計画を策定しています。まん延すると影響が大きいサツマイモ基腐病については、全ての農業者(家庭菜園を含む)の皆様に取り組んで頂きたいこととして、「遵守事項」を定めています。

【防除における5つのルール(遵守事項)】

- ①県が実施するまん延防止のための調査に協力する
- ②本病の発生を確認した場合には、関係機関へ連絡し、関係機関の指導の下、発病株を抜き取り、ほ場(苗床を含む)外に持ち出す
- ③本病の発生ほ場では、2年間、さつまいもを作付けしない(関係機関の指導の下、栽培管理する場合を除く)
- ④本病の発生ほ場から種いもを採取しない
- ⑤本病の発生ほ場では、発生の拡大が無いことを確認する

サツマイモの作付で使用するマルチフィルムは「**産業廃棄物**」です。
「野焼き」「不法投棄」は厳しい処罰の対象になります。
適正な処理できれいな環境づくりを心がけましょう。